

令和元年(2019年)7月31日(水曜日)

県「徴収額増」を期待

入山料依頼の対象拡大



登山者に入山料の支払いを求める県の委託業者
＝30日午前、富士山富士宮口5合目



富士山の環境保全などに活用するため、登山者から徴収している任意の入山料(保全協力金)の対象が今夏、昨年までの「山頂を目指す登山者」から「5合目から先」に立ち入る来訪者に拡大され、県が一層の協力を得るためのPRに力を入れている。県は今夏、徴収額の増加を見込んでいるが、登山者に入山料の意義が十分理解されていないなど、さらなる普及には課題も残されている。

登山者の理解促進が課題

県は2014年から本格的に入山料の徴収

を始め、毎年富士宮、須走、御殿場各登山道の登り口に徴収員を配置して登山者に基本千円の協力を求めている。寄せられた入山料は環境保全策をはじめ、登山者の安全対策、山小屋のトイレ改修などの費用に充てられているが、県外者や外国人も多い登山者に、入山料の目的や使途が浸透しているとは言いが実情だ。協力を拒否したり、知らずに素通りしたりする登山者も多く、特に外国人の理解を得るのが難しいという。徴収は「使途が分からないので払いたくない」という来訪者も一定数いる」と打ち明ける。30日に6回目の富士登山に訪れた滋賀県大津市の自営業芝山敦さん(51)は「毎回支払っているが、どのように役立てられているのか不明瞭。分かりやすくして」と求めた。とはいえ静岡県側の昨年の徴収額は565万2173円、協力者数は5万7155人で、ともに過去最高だった。利便性を高める(政治部・名倉正和、富士宮支局・白柳一樹)のが難しいという。徴収員は「使途が分からないので払いたくない」という来訪者も一定数いる」と打ち明ける。30日に6回目の富士登山に訪れた滋賀県大津市の自営業芝山敦さん(51)は「毎回支払っているが、どのように役立てられているのか不明瞭。分かりやすくして」と求めた。とはいえ静岡県側の昨年の徴収額は565万2173円、協力者数は5万7155人で、ともに過去最高だった。利便性を高める

「富士山号外」登山の思い「紙面」

静岡新聞社は富士山臨時支局に合わせ、8月1日(荒天時は2日に順延)に裾野市須山の水ヶ塚駐車場まで有料の「富士山号外」を発行します。購入者が山頂などで撮影した写真、名前や登山の思い出などを紙面に掲載するパーソナル号外。1部千円(税込み)。専用の筒に入れてお渡します。午前10時半から午後3時まで、同駐車場富士

あす裾野

急グループのピカが運営する複合観光施設「森の駅富士山」で受け付けます。同施設は、シャトルバス乗り換え場に隣接し

紙面には「富士山ギャラリー」と題し、静岡新聞社が保存する秀麗な富士山の空撮写真を添えます。掲載のコードから専用サイトにアクセスすると、複数枚ダウンロードできます。購入者の個人利用(自宅に飾る、年賀状など)の範囲で使用いただけます。問い合わせは本社読者ホットライン(フリーダイヤル0120(439)817)へ(日祝を除く午前9時から午後5時)。



パーソナル号外のイメージ